

森のおくりもの 1月



ガビチョウ（チメドリ科）



新年 明けまして おめでとうございます

今年の干支でもあるイノシシ（ホシノヅシ）ですが、明治時代まではこの辺にもすんでいたそうです。その後しばらくは見られなかったのですが、平成12年に初めて自然観察の森で確認され、今となってはもっとも普通に感じられる野生動物になっています。ガビチョウも平成18年に初めて確認されてから定着しているようです。今年はどうな生き物たちに出会えるのでしょうか。生き物たちとの出会いも楽しみですが、様々なお客様方との出会いも楽しみにしています。

【写真・文 早坂 徹】

あっちもこっちも掘りほり イノシシ



トレイルのあちらこちらに見られるラッセル痕*(掘跡)を見れば存在感は一目瞭然。今年の干支でもあるイノシシです。昼行性ですが警戒心が強く、今のところまだ昼間に会える機会はないですが、センサーカメラにも続々出てくるイノシシが写っていましたので、どこかに潜んでいるはず。姿は見られなくともこの森に居るんだという痕跡(フィールドサイン)はわかりやすく沢山見られます。

フィールドサイン

■ラッセル痕*

イノシシは雑食なので植物の根、クリやキノコ、タケノコの他にヘビやカエル、虫、カニ、ミミズなども食べる。鳥類や、小型の哺乳類までも食べることがある。



■ぬた場

体についたダニなどの寄生虫を落としたり、体温調節を行うためにヌタうち(泥浴び)をする場所。足跡も毛の痕もついてるよ。

■足跡

偶蹄目は親指が退化している。カモシカと比べて副蹄がつくことが多い



副蹄
(人差し指と小指)がつく

■フン

塊粒がつながっているかんじ



■眼

視力は0.1くらい、でも動体視力は人間の能力以上。100m先の人の姿は見えるし、敏感に気が付く。

■強すぎる鼻先(鼻鏡)

鼻を人の手のように使う。鼻と足を使って土を掘る。70キロもある石だって平気で動かしてしまう。センター前の芝生広場の石垣だって壊してしまうほど。

体

■厚い毛皮

硬い棘が当たっても平気。ブラシの素材にもなるほどの剛毛

■脚

時速45キロで走れる。急停車も急発進も急な方向転換もできる。助走なしで高さ1mを飛び越えることだってできてしまう。



【レンジャー:黒川周子】

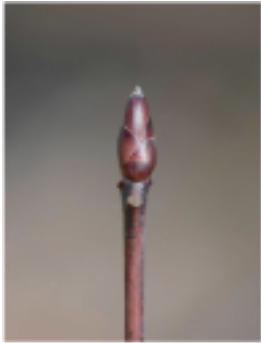
*ラッセル痕・・・エサを探す為に土を掘りおこした痕

1月の生物ごよみ

冬の森を歩いてみるといろいろな冬芽[※]に出会えます。冬芽や葉痕[※]は植物によってその形がさまざまなので名前を調べるのに役立ちます。この冬、あなたも冬芽の観察をしてみませんか？

冬芽クイズ

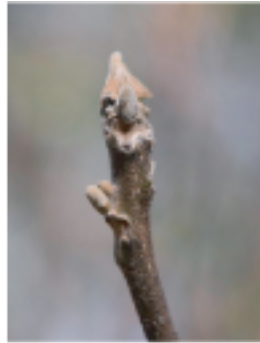
観察の森でみつけた冬芽たち。あなたはいくつわかるかな？
(答えは次のページ)



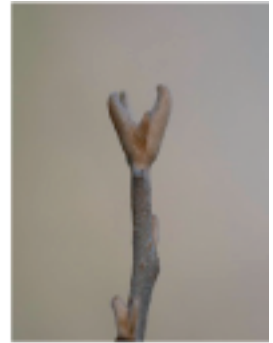
真っ赤な帽子



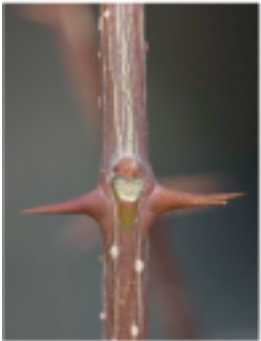
とんがり帽子



ヒツジの顔にみえますね



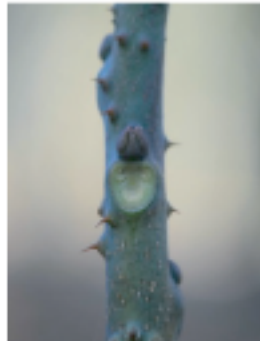
手袋のような冬芽



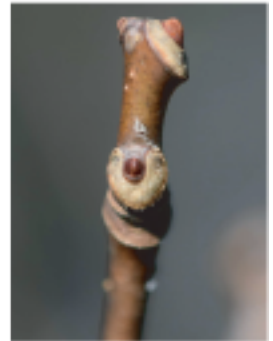
葉っぱは良い香りがします



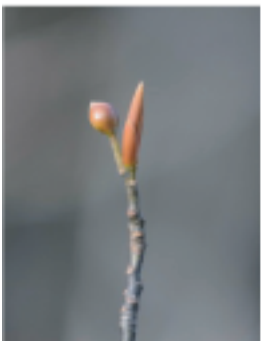
互い違いのトゲが特徴



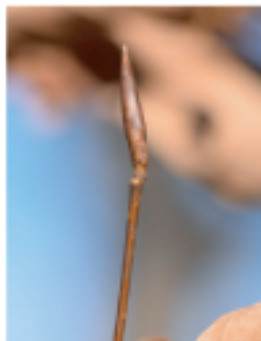
鳥の名前がついてます



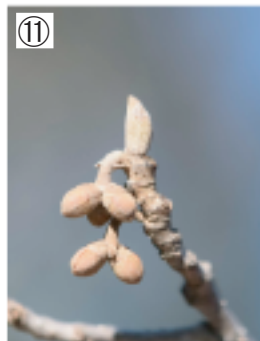
赤鼻ピエロ



爪楊枝の材料にもなるよ



冬も葉っぱを残します



春一番に花が咲く



ムラサキの実をつけます

【レンジャー：齋 正宏】

※冬芽（ふゆめ） 春に葉や花になる部分。

※葉痕（ようこん） 葉が枝についていたとこに残るあと。

森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

『一陽来復（いちようらいふく）』

紅葉の彩りで華やかだった雑木林はすっかり葉が落ち、透けた感じの風景になりました。様々な自然現象で季節の移ろいを感じますが、霜が降りたり夕暮れが早く夜明けが遅くなってくると冬を実感します。この原稿を執筆していたのはちょうど冬至の頃で、昼の時間が一年のうちで最も短くなる日。朝起きるときはまだ真っ暗です。寒さを我慢し窓を開けた時に見える星や朝焼けが美しく心が洗われます。

『一陽来復』といって「冬が終わって春（新年）が来ること、または冬至のこと」という言葉があります。「一陽」は冬から春になる兆し、「来復」は再びやってくること。もとは占いの理論と方法を説く易学の言葉で、「悪い傾向にあった物事が良い傾向に向かうこと」という意味です。夜や冬はマイナスの事象、昼や春はプラスの事象。冬至を境に昼の時間が長くなるため、冬至はマイナスからプラスに切り替わる境目です。そのことから「悪いことが続いた後に幸運が開けること」という意味があります。

新年を迎え、幸運が訪れて明るくよい年になりますようにと願いを込めてこの言葉を選びました。

春に近づいているとはいっても冬はこれからが本番です。寒さは厳しいですが、雪景色や凍てつく光景など、冬にしか見られない美しいものもたくさんあります。寒さ対策をして素敵な自然を探しに出掛けてみてください。

【レンジャー：新田隆一】



3ページの答え

- ①ミズキ ②クマノミズキ ③オニグルミ ④アワブキ ⑤サンショウ ⑥イヌザンショウ
⑦カラスザンショウ ⑧キハダ ⑨オオバクロモジ ⑩イヌブナ ⑪マンサク ⑫ヤブムラサキ

森の「おとしもの」



その9 「一山 二樟 三薄手灯」

樹々の葉も落ちて見通しが良くなりました。森を歩くと時々個性的な繭（マユ）を見かけたり拾ったりします。今回はぜひ知ってほしいマユについてです。



※左よりヤママユ、クスサン、ウスタビガ、写真はほぼ原寸大。

タイトルの「一山二樟三薄手火」は「一富士二鷹三茄子」にちなんだ造語。勿論図鑑にはのっていません。“イチヤマ、ニクス、サンウスタビ”と読んでもらえれば…いや!“イチ ヤマ ニ クスサン ウスタビ”の方が都合いいかも。

「一山」の「山」は山繭（ヤママユ）という蛾のマユ。私は初めてこれを見た時「野生のカイコ？」と思いました。本当はヤママユとカイコは違う種で、そもそもカイコは野生では生きていけません。カイコを家蚕（カサン）と呼ぶのに対し、ヤママユは野蚕（ヤサン）や天蚕（テンサン）と呼ばれています。この糸で編んだ織物は以前山形で見たことがあって淡い緑色がとてもきれい（でもすごく高価）でした。

「二」は樟蚕（クスサン）です。トレイルで拾ったことのある人も多いのでは？このアミアミなデザイン、インパクト半端ないです。樟（クスノキ）を食べることから名づけられたようです。ここにはクスノキはありませんが、クヌギ、コナラ、サクラ、ケヤキなどいろいろな樹木の葉を食べます。

「三」は薄手火蛾（ウスタビガ）。「手火」とは提灯（ちょうちん）のことで、ぶら下がった薄い緑色のマユを提灯に見立て名付けられたようです（名の由来は所説あり）。枝の間に緑色のキラッと光るこのマユを見つけると何か得をした気分になりますよ。なお、これらの並びはマユから成虫の出てくる順番（ヤママユ8月上旬～9月頃、クスサン8月下旬～10月頃、ウスタビガ10～11月頃）でもあります。

花も虫も見られず寂しい時期ですが、この季節だからこそ探しやすいものがあります。これら森の宝石たちを見つけに、ぜひおいで下さい。【レンジャー:木田秀幸】

1月のイベント & お知らせ



◆冬の森のかんさつ会

・冬の森で暮らす動物たちの生活の痕跡をさがします。観察後は無人カメラでとらえた動物の様子の上映会をおこないます。

【日 時】：1月26日（土）午前10時～12時

【定 員】：20名〔先着〕

【服 装】：歩きやすく暖かい服装と靴で

【申込み】：1月6日（日）午前9時から電話で



▶「野鳥のレストラン」好評開催中！（3月末まで）

・えさ台に集まる野鳥をあたたかい部屋の中から観察できます。
野鳥に関するクイズに正解すると、『オリジナル野鳥のしおり』をプレゼントします。



◆12月から3月までのガイドウォークは午前1回です。

・冬季（12月から3月まで）は午前10:00～11:30のみの開催となります。お間違いのないようお越し下さい。

◆1月27日は「館長と森を歩こう」です。



毎週日曜は「ガイドウォーク」の日！

1月の開催日は
6日、13日、20日、27日です。

今月のテーマは「**冬越しの生き物たち**」

開催時間：午前 10:00～11:30



森のちいさなアトリエ

準備してある材料を使って、誰でも自由にクラフトが作れます。
12・1月はまつぼっくりクラフト



ヤマツツジの丘からヨシの湿地へ通じる橋が老朽化のためしばらくの間通行止めになります。

1月の休館日

年始 1日～4日
7日、15日、21日、28日

宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
 - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
 - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③ 「太白団地経由山田自由ヶ丘車庫行」乗車
（※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ヶ丘経由仙台南ニュータウン行」）
いずれも 公営アパート前 下車→ 徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

♪森へおいでください♪



自然観察の森の最新情報、
「森のおくりもの」バックナンバーは
Webで！

「杜のひろば」URL: <http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/index.html>

2019年1月号（毎月1回5日発行）

発行：（公財）仙台市公園緑地協会

編集：仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター

〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

TEL: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133